

アイヌ民族の世界観と「ひと」の役割について考える 溝口 尚美



1. 映画が海を越えて繋げた「ひと」

平取町と私が協働制作したドキュメンタリー映画『Ainu | ひと』の上映会が北海道ポーランド文化協会の主催で2024年6月末に札幌で行われました。前年にワルシャワで開催された映画祭 “In Our Own Words” で本作が上映されたご縁でポーランド在住の日本人の方々と繋がり、私が住むアメリカとポーランドを結んでオンラインで行った対話を録画・編集し、札幌の上映会で来場者にシェアして頂きました。

マイクロバジェットで自主製作した映画がこのように世界の人たちを繋ぐ役割をしていることに映像作家として感慨を覚えます。全ては主人公の古老4人と平取町のアイヌ文化継承に携わる人々の熱意、そして関係者の協力なしには実現しなかった事でした。映画制作と上映に関わって下さった全ての皆さんに心より御礼申し上げます。

2. ロンドンで感じた「ひと」の熱

2023年秋～24年春にかけてロンドンの Japan House で “Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River” が開催されました。「沙流川流域の現代のアイヌ文化」をテーマにした約5カ月に亘る展示に加え、平取町でアイヌ文化継承に関わる人たちがロンドンに行って、踊り・言語・食・手仕事などを紹介する機会も設けられました。故・萱野茂さんが出演する短編映画や拙作も上映され、様々な視点からアイヌを知るこのイベントは大盛況に終わりました。私は2月に古式舞踊と食が披露される時に、ロンドンに飛びました。

昨今「ゴールデンカムイ」が世界中で人気となり、アイヌへの関心が高まっています。一方で、ナマの伝統文化に触れる機会はなかなかありません。ロンドンでは、若い世代も加わって平取の人たちが生き生きと舞台に立つ姿を見て心から感動し、実際に「ひとの熱」を感じられる対面イベントの意義を強く感じました。

そして、私が住むニューヨークでも「アイヌ文化を

紹介する対面イベントをしたい」という夢が生まれました。実現は簡単ではありませんが、最大限の努力をしたいと思います。日本各地でも同じようなイベントが行われる事を願っています。

3. 「ひと」の役割

Ainu はアイヌ語で人間を意味します。『Ainu | ひと』の映画の冒頭ではアイヌ語と日本語を併記して森・川・月・鳥・虫などをモンタージュし、最後にメインタイトルに繋げました。アイヌ民族の考え方では、人種や性別に関わらず人間は全て Ainu なのです。

今、地球では気候変動により、深刻な環境問題が発生しています。そして、人種や土地を要因に人間同士が殺し合う醜い戦争や紛争が起こっています。拙作の主人公の一人、故・鍋澤保さんは、土地を「どこからどこまでが誰のもの」と境界線を作る考え方はアイヌ民族にはなく、全ての生き物が自然界の物を共有し、必要な物を必要な量だけ頂くんだ、と私に話して下さいました。

私がこれまで知り合った南米の先住民族にもアイヌ民族と同じ考え方があります。コロンビアの Nasa はナサ語で人間。エクアドルの Waorani はワオラニ語で人間。地球の真裏の先住民族が同じように自分達を人間と名付けた事は偶然ではないと感じます。

IT 技術が発達し、現代の私たちは地球のどこにいても容易に顔を見ながらオンラインでコミュニケーションができるようになり、「ひと」は素晴らしい技術を作りました。一方で、社会の状況を悪化させているのも「ひと」です。そして、これらの状況を変えていくのは、私たち「ひと」次第です。

平和で豊かな国に暮らしデジタルデバイスにどっぷり漬かる日常生活への自省も込めて、大きな視野で森羅万象の中の人間としての役割を考えながら生きていきたいと思います。

(みぞぐち・なおみ、映像作家)

グラジナ・バツェヴィチの生涯と作曲スタイル 徳田 貴子

前回 POLE113 号では、グラジナ・バツェヴィチのピアノ・ソナタ第1番と第2番についてご紹介しました。今回は、彼女の生涯と作曲スタイルについて詳しく述べます。

キャリア形成期

バツェヴィチ (1909～69) は幼少の頃から父の手ほどきを受けヴァイオリンとピアノにおいて音楽的才

能を現した。1928～32年までワルシャワ音楽院でヴァイオリンと作曲を専攻したあと、パリに留学しナディア・ブーランジェのもとで勉強を続ける。留学中の作品にはパリの作曲コンク



ルで優勝した木管五重奏などがあり頭角を現した。

彼女の作曲スタイルは基本的に新古典主義に分類される。古典主義は1930年代のパリにおいて「新音楽」としてストラヴィンスキーやプロコフィエフを中心に流行となっていた。バツェヴィチもそれに応えて新古典主義にポーランドの民族的要素を取り入れた作曲スタイルを確立させていった。

帰国後、ポーランド国立放送交響楽団に首席ヴァイオリニストとして入団、自らのヴァイオリン協奏曲第1番を初演することになった。彼女は作曲家と演奏家という二足の草鞋を履く多忙な生活を送るようになった。

社会主義リアリズムによる統制のもとで

第二次世界大戦のあいだバツェヴィチは家族と共に地方を点々と避難し、終戦後ワルシャワに戻った。しかし、戦争の終結は自由と平和を意味しなかった。ポーランドに政治的激動の時代が訪れた。鉄のカーテンが降ろされ（1946）、ソ連の統制を受ける東欧は西欧から分断されてしまった。

ポーランド音楽界も西ヨーロッパの前衛的な音楽の動きから切り離され、さらにソ連は文化上の影響力をより強固なものとするため、自国で芸術の指針とされていた「社会主義リアリズム」の統制をポーランドを含む衛星諸国へも押し付けるようになった。音楽分野でも「大衆が理解しやすく、民族的なスタイルを持つ音楽」こそが社会主義リアリズムに則っているとされ、ポーランドの作曲家たちは伝統的な民族音楽を用いて聴衆にわかりやすい音楽を作ることを強制された。

このような時期にも、バツェヴィチは作曲の手を緩めず、むしろピアノ協奏曲（1949）などのちに代表作となる作品を作曲し続けた。また、ワルシャワ市の賞など主要な賞を継続的に受賞して名声を得た。昨年10月に筆者が日本初演したピアノ・ソナタ第1番や、第2番もこの時期に作曲された。

キャリア後期～「ワルシャワの秋」音楽祭以降

1953年のスターリンの死後、ポーランドも次第にソ連の文化政策の押し付けから解放されていく。「ワルシャワの秋」と名づけられた現代音楽祭が定期的開催されるようになり、第1回音楽祭（1956）ではシェーンベルクなど西側の作品が発表された。これをきっかけにポーランド音楽界でも前衛的な技法を用いた作品が相次いで発表され、音楽的な「雪解け」が急速に進んでいることを印象づけた（このあたりの経緯はグヴィズダランカ著『現代ポーランド音楽の100年』57頁以下に詳しい）。音楽界の前衛化の傾向にバツェヴィチも応えようとした。1956年に書かれたピアノのための作品「10の練習曲」では民謡から離れ、拡張された強弱やテクスチャが表現されている。

1960年代に入って、バツェヴィチはポーランド作曲家協会副理事長などの重要な地位に就くようになり、作曲活動は緩やかになった。1966年には国立高等音楽学校（現ショパン音楽大学）の作曲の教授に就任し、首都の音楽大学で要職に就いた初めての女性となった。1968年、ポーランド作曲家協会を代表してアルメニアの音楽祭に出席した旅先でアジア風邪にかかり、1969年1月、若くして帰らぬ人となった。

バツェヴィチの作品が世界的に再評価が進んでいるのは、困難な時代にも妥協せず作曲し続けたからであろう。彼女が兄に宛てた手紙には「作曲家は自身が満足ゆくまで、正直に作曲しなければならない」という言葉が残されている。自身の内なる声に忠実であり続けたグラジナ・バツェヴィチの作品は、これからも私たちに魅了し続けるだろう。
（とくだ・たかこ、ピアニスト、会員）
=写真= 公園で寛ぐグラジナ・バツェヴィチ（1960）撮影：Andrzej Zborski, 提供：Joanna Sendlak



在札幌ポーランド人コミュニティ水曜会千回の集い ラファウ・ジェプカ

2024年7月17日、札幌に住むポーランド人は、毎週恒例の水曜会の記念すべき千回目を迎えました。この伝統は2001年に妻のエディタが水曜の午前にポーランド語の授業をはじめたときから始まりました。

千回目にはもっと早く到達する筈でしたが、コロナ禍で会は長い間中断されました。パンデミック後、私たちは集まる場所を北大中央食堂から向かいに新たに建設されたセイコーマート2階の席に移しました。天気が良ければ屋外のテラスも利用できます。

水曜昼には北大に来られない人もいるため、2日

後の金曜夜により多くのメンバーで千回目をお祝いしました。今回は5百回目の時のような盛大なイベントではありませんでしたが、パヴェウ・ミレフスキ大使から祝辞をいただき、在札幌ポーランド人コミュニティ全員を代表して心から感謝申し上げます。

ここ数年、札幌のポーランド人の数は少し減りました。その理由の一つは、コロナ禍が学生や研究者の流入を妨げたことです。しかし、状況は徐々に改善しています。千回記念の写真「=次頁=」には、若手研究員として滞在中の2人と、ワーキングホリデービザで

札幌に来た1人が写っています。また、以前は学校の関係で参加できなかった私たちの子どもたちも、この特別な会に加わることができました。



が縮まっても、顔を合わせる毎週の集まりは私たちの海外生活にとって非常に貴重な機会です。水曜会の伝統が新世代のポーランド人たちにより、さらに2千回、2043年ま

次は2034年夏に私たちが1500回目のランチを共にす

ることを楽しみにしています。その頃、私は定年を間近に控え、水曜会のおかげで素晴らしい人々と出会い友情を築けたことに感謝しているでしょう。この特別な機会に、日本全国に散らばる元札幌ポーランド人コミュニティの皆さんが札幌に集まり、新幹線で訪れることもできるかもしれません。

でも続くことを願っています。

最後に、私たちのコミュニティを常に支援して下さった故富山信夫さんはじめ北海道ポーランド文化協会の皆さまに深く感謝申し上げます。(Rafał Rzepka, 北海道大学大学院情報科学研究院准教授、事務局長)

1996年に初めて札幌駅に降り立ったとき、人生の大半をこの素晴らしい街で過ごすことになるとは思いませんでした。インターネットの普及で母国との距離

=写真= 千回目の会：左からミハウ・マズル、シルヴィア・オレーヤージュ、マチェイ・ピエイコ、ズザンナ・ガイダ、恵李アンナ・河村、パヴェウ・モティカ、アグニェシュカ・ポヒワ、エディタ/ラファウ/ミコワイ・ジェプカ



会員動向 (2024.8~2025.1)

入会: 引田秋生、坂尻昌平、樋口みな子 (敬称略)

ご寄付 (2024.8~12) 深謝!

(1口千円) (7) 齊藤賢人、齊藤美佳 (3) 三上和子 (2) 安藤厚、安藤むつみ、安藤瞬 (1) 林祥史、小林浩子、佐藤晃一

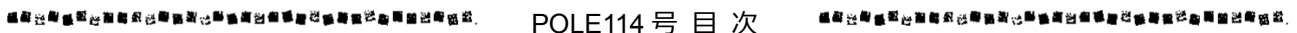
年会費 (2024.9~2025.8) 納入のお願い

年会費の納入をよろしくお願い申し上げます。

年会費: 一般3,000円、学生1,500円 また、維持会費としてご寄付(1口千円:任意)も承ります。

※ご請求額は個別の納入依頼(振替用紙同封)をご覧ください

- ◆ゆうちょ銀行振替口座【記号】02740 5【番号】19735【加入者名】北海道ポーランド文化協会
(他銀行からの送金の場合) 店番 (279) 預金種目 (当座) 店名 (二七九[ニナナキユウ]店) 口座番号 (0019735)
- ◇北洋銀行(本店営業部) 普通預金口座【店番号】028【口座番号】0605084【名義】ホッカイドウポーランドペンカキョウカイ ※「北洋銀行アプリ」を利用すれば、北洋銀行口座間の送金手数料は無料
- ※遠方の方はご寄付(年千円)で会誌 POLE の定期読者になることもできます。事務局にお問合せください



POLE114 号 目 次

ポーランド「BENE MERITO」名誉勲章 受章! 受章にあたって (ポーランド広報文化センター、安藤厚)

ワルシャワ蜂起80周年記念特別展 オープニング記念式典..... 1

特別展を観て(石田レイ子)、報告《第113回例会》第13回「午後のポエジア」(村田譲、神馬文男)..... 2

《第114回例会》ポーランド名作映画ビデオ鑑賞&交流会2025『イーダ』(池田光良)..... 4

報告《第38回定例総会&懇親会》、総会議事録(熊谷敬子、佐々木保子)..... 5

〈新刊紹介〉『迷子の魂』『個人的な人』(脇明子、住谷秀保)『ヘルベルト詩集』(栗原成郎)..... 8

アイヌ民族の世界観と「ひと」の役割について考える(溝口尚美)

グラジナ・バツェヴィチの生涯と作曲スタイル(徳田貴子)..... 10

在札幌ポーランド人コミュニティ水曜会千回の集い(ラファウ・ジェプカ)..... 11

	発行 北海道ポーランド文化協会	ポーレ編集委員会
	〒060-0018 札幌市中央区北18条西15丁目3-19 安藤方 TEL・FAX 011-556-8834, hokkaidopolandca@gmail.com	安藤厚/池田光良 熊谷敬子/越野誠
	東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-29-309 音響計画(株) 霜田気付 TEL 03-6804-1058 FAX 03-6804-6058	